



2021年5月7日

各 位

会社名 竹田印刷株式会社
 代表者名 代表取締役社長 木全 幸治
 (コード番号 7875 東証第二部・名証第二部)
 問合せ先 取締役経営統括本部長 細野 浩之
 (TEL 052-871-6351)

連結業績予想の修正及び個別業績の前年実績値との差異に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2021年2月12日に公表した2021年3月期の通期連結業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、個別業績の予想値につきましては公表をいたしておりませんが、適時開示基準に従いまして、前期実績値との差異につきまして下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 [A]	31,000	100	200	△ 1,780	△ 218.59
今回修正予想 [B]	31,108	360	478	△ 1,342	△ 164.80
増減額 [B-A]	108	260	278	438	—
増減率 (%)	0.4	260.8	139.0	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	35,651	502	588	381	47.08

修正の理由

デジタル化の進展による国内印刷市場の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響により、当社グループの業績は大変厳しい状況が続いておりますが、年度末にかけて半導体関連マスク事業が好調を維持し、物販事業においても持ち直しが見られたため、売上高が前回予想を上回る見通しとなりました。

利益面では、上記増収の効果に加えまして、当社における役員報酬の減額やマネジメント手当(役職手当)の減額、生産設備の統廃合、交際費や旅費交通費などの経費削減に取り組みました結果、営業利益及び経常利益が前回予想を上回る見通しとなりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、特別損失及び繰延税金資産の取り崩しなどによる法人税等調整額が、当初見込額よりも抑えられたため損失額が圧縮いたします。

2. 2021年3月期 個別業績の前年実績値との差異 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 [A] (2020年3月期)	16,818	△ 60	168	△ 27	△ 3.36
今回発表予想 [B]	14,067	17	219	△ 1,519	△ 186.62
増減額 [B-A]	△ 2,750	77	51	△ 1,492	—
増減率 (%)	△ 16.4	—	30.4	—	—

差異の理由

厳しい市場環境の影響を受け、印刷事業で売上高が減少いたしました。営業利益は、半導体関連マスク事業が好調に推移したこと及び経費削減の徹底により前期実績値を上回る見通しです。経常利益におきましても、営業外収益に雇用調整助成金61百万円を計上したため、前期実績値を上回る見通しとなりました。

一方、当期純利益は、特別損失に当社関西地区における固定資産除売却損1億24百万円及び減損損失2億72百万円、希望退職者の募集に伴う特別退職金及び再就職支援費用5億93百万円を計上し、繰延税金資産の取り崩しなどにより法人税等調整額を7億11百万円を計上したため、前期実績値を下回る見通しとなりました。

(注) 通期連結業績予想及び個別業績の前年実績値との差異につきましては、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

以上